

まちづくり達成状況報告書（事務事業点検シート）

課等名：都市計画課 シートNo：82 作成日：2024/2/16

① 総合計画上の位置付けと事務事業説明

後期 基本 計画	施策の大綱	V都市基盤の充実	背景・課題	目的・意図
	施策の目標	2多様な交流を促す交通ネットワークを形成する	南北に長く平坦な地形を有し、居住地が多極化・分散化しているため、交通需要密度が低いという地理的特性があります。現在、鉄道、路線バスのほか、市民の生活交通手段を確保するため、乗合タクシー（デマンド交通）により交通空白地帯の解消を図っていますが、路線バスの減便・廃止やタクシー事業者の廃業等が相次いでおり、市内での移動手段を維持するため、コミュニティバスの運行や既存公共交通の維持・改善が求められています。	関東鉄道常総線を南北の移動の軸として、各地域（居住地）と拠点を結ぶ主に東西の移動を支える目的としてコミュニティバスの新たな運行を目指します。また、常総線やふれあい号など既存公共交通を維持するためにも、関東鉄道や沿線自治体と協力して利用促進策を講じて行きます。
	施策	2交通機関の整備		
	施策内容	公共交通体系の充実、移動利便性の向上		
	その他、根拠法令及び分野別計画	常総市地域公共交通計画		
事務事業名	予約型乗合交通「ふれあい号」、コミュニティバス運行業務			

② インプット（投入）

主な予算科目	会計名	
	一般会計	
	款	土木費
	項	都市計画費
	目	都市計画総務費
事業		交通対策費

③ 主なアクティビティ（活動）とアウトプット（結果）

アクティビティ（活動）				アウトプット（結果）	
活動名	対象者	活動指標（回数・件数・日数等）		活動指標（参加者数・面積等）	
		R5年度実績値	R5年度目標値	R5年度実績値	R5年度目標値
鉄道安全輸送設備整備事業補助	関東鉄道株式会社	—	—	2,983,000円	—
常総線活性化支援のPR協力（常総線活性化支援協議会）	常総線利用者	—	—	63回	—
ふれあい号の運行	市民	241日	241日	58.3人/日	71人/日
常総線との接続を考慮したコミュニティバスのルート・ダイヤ設定	市民及び常総線・コミュニティバス利用者	—	—	7駅	—
近隣自治体との広域連携の検討	市民及びコミュニティバス利用者	—	—	2自治体	—
路線バスの廃止路線を補完したコミュニティバスルートの検討	市民及びコミュニティバス利用者	—	—	1路線	—

④ 初期・中間アウトカム（成果）

指標名	成果指標	
	R5年度実績値	R5年度目標値
コミュニティバス運行に向けた届出・認可の進捗率	100%	100%
ふれあい号利用者数	58.3人/日	71人/日

⑤ 最終アウトカム（成果）

指標名	成果指標	
	R5年度実績値	R9年度目標値
コミュニティバス利用者数	—	57,600人
ふれあい号利用利用者数	58.3人/日	71人/日

⑥ 点検

改善の余地							今後の方向性	
☐	コスト	☒	活動	☐	成果	☐	その他	コミュニティバスやふれあい号を単体で捉えることなく、限られた交通資源を組み合わせることで、持続可能な公共交通網の形成を図っていきます。併せて、利便性を向上させるために、予約型乗合交通「ふれあい号」にAIを用いた配車が可能な予約システムの導入を行い、効率的なデマンド交通の運行を行っていくと共に、運行体制の見直しを検討していきます。 また、コミュニティバスについては、利用状況を見ながら運行計画の見直しやルートの最適化を検討していきます。
業務の振り返り								
コミュニティバスについては、各地域と鉄道駅等の拠点を結ぶルートを市内全域に網羅的に設定し、令和6年度当初から運行開始となります。 今後はコミュニティバスの利用状況を見ながらルート等の見直しを検討していくとともに、ふれあい号との役割を明確化させ、持続可能な公共交通網を形成していくことが必要です。								